

吊草村（イ族の村）



中庭ではシートに広げて天日干ししていた作物を取り込んでいるところだった。

一軒の農家に入れてもらった。右側に木造の母屋があって、その前が中庭の作業場になっている。その向うにあるのは水屋と思われる。左の白い壁の建物はトイレだろう。



右の写真は最初のものと同側になっているが、母屋は結構な大きさだ。大家族で住んでいるのだろう。

また明日広げて干すのだろう。真ん中にまとめてシートに包んでいる。脇に石が積んであるが重しに使っているものと思われる。

農作業にも民族衣装を着ていた。色合いや刺繍は先程見た老婦人とは異なるが黒い帽子はかぶっていた。

作業を見学しながらこの一家の人たちの写真を撮らせてもらった。



母屋の片隅で食事の支度をしているのだろう。野菜の前処理をしている姿を見つけた。若い方は民族衣装を着ていない。





後先になってしまったが、門をくぐってすぐの所にある建屋が母屋の中心で玄関にあたる。木製の厚い扉には木彫がほどこされていて立派なものだ。大勢の観光客が入ってきたので祖父らしい男と子供たちが出てきた。

祖父も子供たちの服装も普通である。働き盛りの男たちの姿をこの家でも村の中でも見かけることはなかった。恐らく、畑で農作業をしているのだろう。

右の写真は農家の見学を終えて帰るときにすれ違った民族衣装のおばさんである。頭に被った黒い帽子も色んな被り方がある。曲げてかぶっている。服装もさっぱりとしていて、なかなかお洒落なおばちゃんであった。

近代化の波はここまで来ていない。燃料もまだ薪らしい。TV アンテナもない。しかし、建物や服装は違うが家族が寄りそって生活している姿は一昔前の日本の農村を彷彿させる。

